

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅳ 講義		必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中 誠	開講期	2年 後期	単位数 2

【授業の主題】 相談援助の過程とそれに関わる知識と技術について理解する。相談援助の展開過程に沿いながら体系的な相談援助の過程を理解し、その過程で必要とされる契約・アセスメント・介入・モニタリングなどそれに伴う面接・記録・評価の技術について体系的に理解を深める。またこれまでの豊富な実践例をテキストの内容に当てはめ、理論の解説を講義の内容としたい。さらに国家試験をも視野に入れた講義も試みたい。

【到達目標】 相談援助の過程とそれに係る知識と技術（介護保険法による介護予防サービス計画，居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画についての理解を含む）について実践的に理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 相談援助の展開過程①プロセス：ケース発見・インテーク
- 第 3回 相談援助の展開過程②ニーズ確定：アセスメント
- 第 4回 相談援助の展開過程③支援標的目標設定：支援計画作成・実施
- 第 5回 相談援助の展開過程④モニタリング・再アセスメント・効果評価
- 第 6回 相談援助のための契約技術
- 第 7回 相談援助のためのアセスメント技術
- 第 8回 相談援助のための介入技術
- 第 9回 相談援助のためのモニタリング・再アセスメント・効果評価技術
- 第10回 相談援助のための面接技術①目的・展開
- 第11回 相談援助のための面接技術②技術・形態
- 第12回 相談援助のための記録の技術①意義・目的・活用
- 第13回 相談援助のための記録の技術②方法・実際例・課題
- 第14回 相談援助のための交渉の技術①意義・目的・留意点
- 第15回 相談援助のための交渉の技術②プレゼンテーション・まとめ

【授業実施方法】 講義形式

【授業準備】 あらかじめ教科書によく目を通しておくこと。

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ～Ⅵ 等

【教科書等】 「7 相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する

【成績評価方法】 筆記試験 80%、授業態度 20%により総合的に判断する

【学生へのメッセージ】

本講義は社会福祉専門職の視座、技術、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である。社会福祉士を目指す学生は積極的かつ情熱的に知識の習得を目指してほしい。